

市立幼稚園の今後についての説明会 意見・質問及び教育委員会としての考え方（令和8年7月14日 岩園幼稚園開催分）

番号	項目	意見・質問	教育委員会としての考え方
1	統廃合に伴う通園時の安全確保と配慮について	幼稚園が統廃合されるということで、例えば西山幼稚園から岩園幼稚園へ転園する場合など、通園距離が長くなります。交通量が多い場所もあり、通園時の安全確保についてはどのようにお考えでしょうか。車の誘導や見守りの人員を配置するなど、市としての方向性をはっきり示していただきたいです。遠方から通う方への配慮も必要ではないでしょうか。	幼稚園が減ること通園距離が長くなってしまう点については心苦しいですが、今回は学校教育審議会の答申に基づき「各中学校圏域に1園を拠点として残す」という判断のもと、再編を進めているところです。現時点で通園路の安全確保のための人員配置は考えていませんが、ソフト面でどのような対応ができるかは検討していきます。 なお、現在でも幼稚園には園区はないので、市内各所から幼稚園を選んでいただき、遠方より通っていただいている方もおられると認識しています。幼稚園への車での登園は原則として認めていませんが、自転車での登園は認めています。通園の安全についてはどうしても保護者のかたに配慮をお願いせざるを得ない部分はあります。
2	架け橋期コーディネーターの役割と配置について	「架け橋期コーディネーター」は、具体的にどのような役割を果たし、配置されることで何が変わるのですか。また、各園にどのように配置されるのですか、今園で働いている担任の先生が兼任するのですか。	現在、就学前施設の教育も変わりつつあり、探究的な遊びや学びの意欲を育てることが重視されています。架け橋期コーディネーターは、就学前の遊びの中にある学び（例：自然の中での秋見つけなど）と、小学校での学びの共通点を見つけ、就学前施設と小学校を滑らかにつなぐ役割を担います。これにより、こどもたちが安心して学校での学びに移行できるようになります。どこに何人を配置するかについては現在検討中です。各学校のグループ内でそれぞれの特色を活かしたカリキュラムを作れるよう、最初はコーディネーターが入り、徐々に自走できるように支援していく形を想定しています。 なお、架け橋期コーディネーターは担任との兼任ではなく、専任として配置する予定です。
3-1	閉園対象園の声と、跡地利用について	岩園幼稚園は残る方針ですが、小槌幼稚園や西山幼稚園などでの説明会では、保護者からどのような反応があったのですか。	さまざまなご意見を頂戴しました。「最後の1人になっても残してほしい」というお声や、幼稚園教育に対する高い評価もいただきました。また、幼稚園が情報交換の場など地域の拠点として重要な役割を果たしているという、保護者や地域のかたの熱い思いも強く感じたところです。
3-2	閉園対象園の声と、跡地利用について	公立の幼稚園が3園に減ることはショックです。閉園となった跡地に新たなこども園などができるのであれば、矛盾していると思います。最終的に公立幼稚園はどうなっていくのですか。	閉園となる園の跡地利用については現時点で決まっていることはありません。地域の避難所機能を持っていることなども含め、教育委員会だけでなく市長部局とも協議して検討していきます。また、幼稚園部分（3～5歳児の短時間保育部分）については、市立の認定こども園等も含めて定員に達していない状態のため、跡地に新たなこども園を作るといった計画はありません。 今後の就学前施設のあり方については、こどもの数の状況などを見据えながら、市長部局と教育委員会が連携して一番良い形を検討していく必要があると思っています。

市立幼稚園の今後についての説明会 意見・質問及び教育委員会としての考え方（令和8年7月14日 岩園幼稚園開催分）

番号	項目	意見・質問	教育委員会としての考え方
4-1	公立幼稚園の魅力発信・PR手法について	幼稚園を選ぶ際、ネットで口コミを探しても見つからず、実際に公園で出会ったお母さんやこどもたちの良い雰囲気を見て入園を決めました。公立幼稚園の良さ（先生の温かさ、小学校との連携など）が十分に伝わっていない気がします。イベントの様子を動画や写真、SNS（Instagramなど）でもっと発信してほしいです。	情報発信については、我々も課題として考えています。ケーブルテレビへの出演やInstagramの開設、園庭開放の回数増など、できる限りオープンにするよう努めています。動画や画像のSNS発信が持つ影響力は大きいものの、個人情報や安全性の観点から「映りたくない」というかたもおられるため、編集や配慮に非常に神経を使う部分もあります。保護者の方のお気持ちはよくわかりますので、現場とも相談しながら、より良い発信方法を一緒に考えていきたいと思っています。
4-2	公立幼稚園の魅力発信・PR手法について	自分は広報紙や地域の掲示板、市のアプリなども見て情報収集しています。入園前に実際にクラスに入って遊べる機会などがあれば、雰囲気が伝わりやすいのではないのでしょうか。	若い世代のかたもSNSなどだけではなく、掲示板や市の広報紙などからも情報を得ておられるというお声は、大変参考になりました。入園前から園に足を運んでいただけるよう、様々な機会を増やす工夫をしたいと思います。
5	3歳児保育の定員と受け入れ体制について	岩園幼稚園の魅力の一つは3歳児保育があることですが、定員（25名）を超えると抽選になってしまいます。少し定員をオーバーしただけでも抽選になるのですか。先生を増やして受け入れ枠を広げることはいらないのですか。	近年、定員に達しない状況が続いていますが、もし定員を超える申し込みがあった場合の対応についてはいったん持ち帰り検討はしたいと思います。しかしながら、市立の認定こども園や他の就学前施設でも3歳児の受け入れは定員に達しておらず、空きがある状況のなかで、市立幼稚園に人員を充ててクラスを増設するのは、市全体のバランスや予算の兼ね合いもあり難しい面があります。定員25名という設定は、初めて3歳児保育を実施するにあたり、保育の質を確保しつつ可能な限り受け入れる人数として設定した経緯があることもご理解いただきたいです。
6	その他（待機児童の状況など）	今、市内に保育所の待機児童はいらっしゃるのですか。	国の基準に基づく待機児童は、現在はほとんどいらっしゃいません。ただし「希望する特定の園に入りたいために入所を待っている」というかたは一定いらっしゃいます。